

2022年度『資本論』深掘り講座 (第2回) ニュース 1/9

新年おめでとうございます。今年も一緒に、学んでいきましょう。

前回の学習

『序言』マルクスの死後、労働価値説への論難に対して、エンゲルスは「価値法則に基づいてどのようにして同等な平均利潤率が形成されるのか、されざるをえないのか」と問題提起し、諸解答への評価をします。末尾で、ファイアマンとコンラート・シュミットを称えます。シュミット: 剰余生産物は、その生産に必要なとされる資本に比例して交換されるのであって…同じ大きさの資本は等しい時間に等しい利潤をもたらす。(労働価値説からの試み。しかし、資本を構成する過去の労働が価値形成的といい、価値法則に対立する。)

ファイアマン: 競争によって、すべての資本にとって等しい利潤率を奪い取る。…利潤の総量は資本の大きさに依存する。不変資本と可変資本の比による、価値から離れた販売価格の凸凹は相殺される。(決定的な点を的確に指摘。しかし、論述展開に必要な中間項—剰余価値から利潤への転化—を欠いている。)

利潤の風景。ミートホープ元社長の偽装事件。「腐りかけた肉はカネ」と利益優先にひた走る、資本の本性。

本日の学習

利潤論 (1) 「剰余価値の利潤への転化」
利潤論 (2) 「利潤の平均利潤への転化」

本日のスケジュール

次回

12:55~13:00 挨拶 資料確認
13:00~14:00 講義 I (60分) 2/5(日) 「利潤率の傾向的低下」
14:10~15:10 講義 II (60分) 会場: エデュカス東京5B会議室
15:20~16:20 講義 III (60分) *休憩時間に、質問・感想をお出しください。
16:30~16:55 Q&A (会場 15分・Zoom10分)
16:55~17:00 片付け・終了

ご案内

第1巻講座 1/15(日) 13:00~ 17:00 エデュカス東京 5F
第5篇 第14章 ~16章
『D・K』を読む会 1/28(土) 13:00~17:00
東京八重洲地下 八重洲倶楽部 第7会議室(Zoomも)
第1巻 第7篇 第24章 「いわゆる本源的蓄積」